

糖尿病の現状と当院の取り組み

内科 診療部長 兼 救急室 副室長
井野口 卓

2021年1月発行

徳島県の糖尿病の現状

徳島県では、1993年から2004年にかけて、12年連続で「糖尿病死亡率全国ワースト1位」が続いていました。県は「糖尿病緊急事態宣言」を行い、注意を喚起するとともに、県民総ぐるみによる健康づくりに関する取り組みを進めました。

2007年には糖尿病死亡率は全国ワースト7位と改善傾向がみられましたが、2008年から2013年にかけて、またもや連続で全国ワースト1位。

その後、2014年から2016年にかけてやや改善しましたが、2017年には再びワースト1位へ。2018年はワースト2位、2019年には再び全国ワースト1位となり、糖尿病死亡率の高い状態が続いています。

その原因として、以前は運動不足を指摘されてきました。しかし、最近の統計では運動不足はそれほどでもなく、野菜摂取量が少ないというデータが散見されます。つまり、炭水化物中心の食事内容が主要因であると考えられてきています。

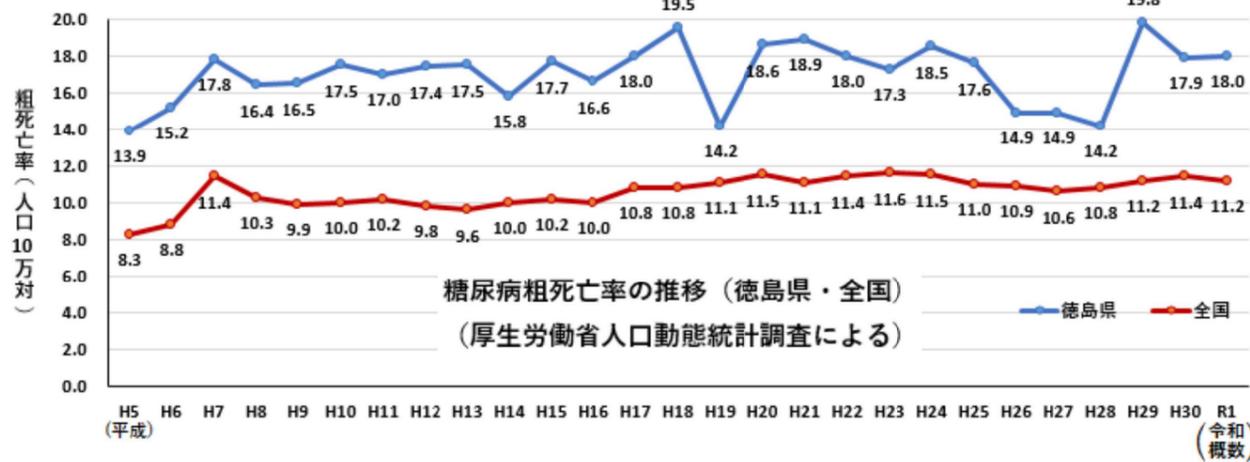
取り扱っている主な疾患

- 糖尿病 (1型・2型)
- 脂質異常症
- 高尿酸血症・痛風
- 視床下部・下垂体疾患：先端巨大症・尿崩症等
- 甲状腺疾患：バセドウ病・橋本病等
- 副甲状腺疾患
- 副腎疾患：クッシング症候群・褐色細胞腫・原発性アルドステロン症等
- その他の内分泌疾患

糖尿病・代謝内科は常勤医師1名、外来診療を週2回行っております。

外来患者数はカルテベースで年間約450名、入院患者数は年間約100名です（うち糖尿病教育入院は45名）。

糖尿病紹介患者数は2018年に60名、2019年に63名でした。



治療実績

外来 (年間)		入院 (年間)	
症例	症例数	症例	症例数
糖尿病	395	糖尿病	70
甲状腺疾患	150	甲状腺疾患	5
下垂体疾患	4	下垂体疾患	2
副腎疾患	4	副腎疾患	2

当院の状況

■糖尿病に関して

薬物療法の進歩が著しい昨今、適切な薬物使用のためには、正確な病状把握が重要です。

また、患者教育・疾患理解を食事・運動・薬物療法に先立つ重要な治療と考えています。

このため、初診の患者さんに対しては、インスリン^{*}分泌能検査 (HOMA-R、CPI、尿中Cペプチドなど) を必ず行います。

並行して管理栄養士による栄養指導、各合併症の病期判定のための検査を行っています。

^{*}インスリン…食後に上がった血糖値を下げて、一定値に保つ働きを担うホルモン

■甲状腺疾患 (バセドウ病、橋本病等) に関して

診断基準に則り、エコー・血液検査等で総合的に診断を行っております。

バセドウ病 (動悸、体重減少、指の震え、甲状腺の腫れ、目がとび出す、手足が動かなくなる等の症状が出る) に関しては、抗甲状腺薬、ヨード治療、β遮断薬等で治療を行います。

必要時には手術療法・アイソトープ治療に変更してまいります。

■副腎疾患 (原発性アルドステロン症、クッシング症候群等) に関して

血液検査・尿検査・画像検査・各種負荷試験にて確定診断・局在診断 (病名を付けるのではなく、神経系

のどこに問題があるのかを明らかにすること) を行います。その結果を見て、手術治療・薬物療法を選択してまいります。

糖尿病に関する啓蒙活動

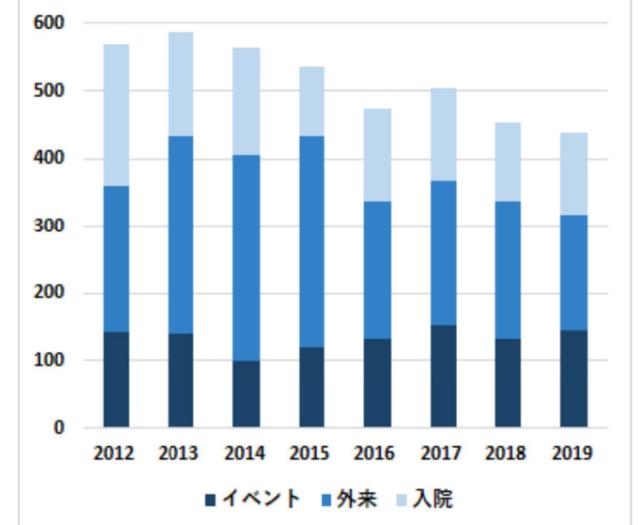
徳島の現状を踏まえて、当院では糖尿病の教育に力を入れており、毎年50~60人程度の教育入院(7~14日間程度)を実施しています。

また、週1回の糖尿病教室を開催しています。これは医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師が2コマずつ、糖尿病に関する講義・実技指導を行うというものです。ボランティア活動であり、どなたでも参加できるようになっています。年間参加者は300~400人に及びます。

11月14日の世界糖尿病デーには、糖尿病の予防や治療継続の重要性について周知するためのキャンペーンやイベントが、様々な国で行われます。当院でもこれに合わせて、院内イベントが開催されております。

2020年からは、糖尿病腎症透析予防指導 (透析予防外来) も開始されました。こちらは毎週金曜日に行われています。

糖尿病教室の実績 (患者数)



当院では病状把握、一通りの教育の後、各患者さんに最も適した治療を行うよう努力しています。糖尿病にお困りの患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。